

各 位

2015年2月12日

本社所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目 23 番 5 号
 上場会社名 株式会社サニーサイドアップ
 代表者 代表取締役社長 次原 悦子
 (コード番号：2180)
 問合せ先 執行役員 グループ管理本部本部長 相田 俊充
 電話番号 03-6894-3233

平成 27 年 6 月期第 2 四半期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 26 年 8 月 13 日公表の平成 27 年 6 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 26 年 7 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）の予想値と本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 27 年 6 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想との差異（平成 26 年 7 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回公表予想 (A)	百万円 5,836	百万円 26	百万円 48	百万円 0	円 銭 0.23
実績値 (B)	6,707	▲60	37	▲42	▲12.09
増減額 (B-A)	870	▲87	▲11	▲43	—
増減率 (%)	14.9%	—	▲23.2%	—	—
前期第 2 四半期実績	6,642	52	99	8	2.52

（予想値と実績値の差異の理由）

■営業利益

当社の基幹事業であるマーケティング・コミュニケーション事業は増収増益を続け、当第 2 四半期連結累計期間においても過去最高の業績を達成したものの、SP・MD 事業及び bills 海外事業の業績が期首計画に及ばなかったために、予想値と実績値の差異が発生致しました。

SP・MD 事業に関しましては、総じて急激な円安が進み原価が高騰したため、各案件の利幅が減少したこと、且つ、当初高収益を期待していた一部の大型案件において一時的に大きく費用が発生したこと等に起因して、期首計画の営業利益目標が未達成に至りました。

bills 事業に関しましては、国内 4 店舗は開業から 7 年目を迎えた今なお安定的に高い収益性を発揮することで当社連結業績に大きく貢献する事業に成長しております。高い可能性を秘めた海外店舗は未だ成長途上ではありますが、以下の理由により海外店舗の期首計画売上高及び営業利益が未達成に至りました。グローバルブランド確立への挑戦を行っているハワイ店舗におきましては、継続的な PR 活動を行い現地マスメディアでの露出を増加させ、さらには、宿泊施設との連携により来店誘導を図るなどし、着実に認知度を向上させております。しかしながら、主には現場のオペレーションにおける非効率性が機会ロスに繋がり、その成果を刈り取る状況には至っていないため、日々の業務改善に取り組んでいる段階であります。同時に、原材料調達の効率化やメニューのローカライズを推し進める等、改善策は奏功し始めており、早期に業績向上を目指しています。東アジア展開の戦略拠点である韓国店舗においては、出店している施設（ロッテワールドモール）自体の開業遅延に伴い、店舗の開業を遅延せざるを得ませんでした。また、周辺施設の相次ぐ事故により、施設全体の評判が一時的に低下すると同時に大きな集客機能を期待していた水族館や映画館等が一時的に閉鎖され、施設全体の集客力が弱まった結果、客数が計画を下回っております。かかる状況下ではありますが、事故等への対策が進み休業中であった周辺施設が韓国旧正月（2月18日から2月20日）以降に営業を再開すると見込んでおり、施設全体への評判が回復すると同時に bills への客足が復調する見通しです。また、施設の状況に関わらず、当社グループが有する韓国における著名人のネットワーク等を活用し韓国国内で積極的な PR 活動を展開することで客足の回復に取り組んでおり、最も注目を集めるテナントとしての開業以来、bills 自体の人気は今なお不動であります。このように、国内店舗は引き続き堅調な収益を維持させるとともに、発展途上である海外店舗はこれまで築いてきた bills ブランドを毀損させることのないよう収益改善に鋭意努めてまいります。

以上、各事業個別の最適化を目指すと同時に、当社グループ全体で売上原価抑制及び販管人件費削減に厳格に取り組み短期的な収益改善を徹底し、中長期経営計画の達成へ向けても挑戦を続けてまいります。

■当期純利益

為替差益 88 百万円を含む営業外収益が発生しているため経常黒字を確保しましたが、上述の営業利益における差異発生に伴い、当期純利益の差異が発生致しました。

以上

（本件に関するお問合せ先）

株式会社サニーサイドアップ グループ管理本部 広報 IR 部 TEL 03-6894-3233